

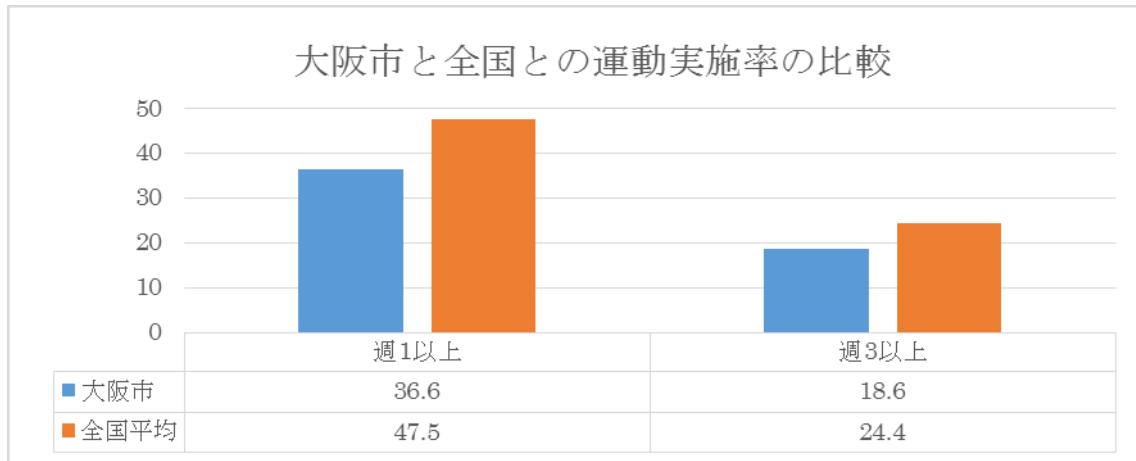
大阪府の運動実施率向上策 ～健康でお得！！～ 大阪経済大学 相原ゼミ するスポーツチーム ○梶原 悠矢 山本 康平 村上 由佳

1. 緒言

現在の大阪府の運動実施率は、全国平均に比べて下回っているのが現状である。大阪府の人々に「スポーツの持つ楽しさ、素晴らしさ」を感じてもらい、なおかつ自身も健康でいられる様な制度がある事を知ってもらう。高齢者の方や、働き世代の20～40代の方に焦点を当てて取り組む。

2. 大阪府の現状と課題

大阪市の20歳以上の市民の週1回以上のスポーツ実施率は、平成24年度の調査では36.6%となっている。一方、平成24年に策定された国の「スポーツ基本計画」においては「できる限り早期に」65%という目標を掲げている。しかし、国の平成27年度の世論調査では、40.4%であり、大阪市は全国平均を下回っている。また、その特徴として20～40歳代の実施率が低いこと、そして「スポーツに無関心な人」の割合が40%にも達していることが挙げられる。国のスポーツ基本計画では、「スポーツ未実施者をゼロに近づける」という目標も掲げられており、スポーツ実施率を向上させるには、スポーツ無関心層へのアプローチが必要だと考える。



出典：大阪市（2016）大阪市民のスポーツと健康に関する実態調査

文部科学省（平成24年度）成人の週1回以上のスポーツ実施率の推移

表 1 大阪市民のスポーツ実施率 (20 歳以上)

	H24年度	H19年度	H14年度
週に1回以上	36.6	45.7	57.3
週に3回以上	18.6	29.7	26.6
全くしない	26.7	25.5	—

出典：大阪市（2016）大阪市民のスポーツと健康に関する実態調査

世代間格差について(実施率)

20代男性 42.5	20代女性 17.0	30代男性 32.6	30代女性 31.5
40代男性 41.1	40代女性 28.9	50代男性 26.7	50代女性 40.5
60代男性 36.3	60代女性 50.0	70代男性 52.1	70代女性 33.8

3. 研究目的

本研究では、大阪府のスポーツ実施率を向上させるため、運動して健康年齢を下げることでお得になる「健康年齢連動型医療保険」について提言する。運動し健康年齢が下がることで、病気や怪我のリスクが減り、医療費なども削減できるので、いかに活用できるかを考察する。

表 2 全国平均と大阪府の医療費の比較

		平成 17 年度	平成 22 年度
一人当たり医療費	全国平均	821,403 円	904,795 円
	大阪府	957,743 円	1,058,790 円
	(金額の差)	(136,340 円)	(153,995 円)
	(率)	(116.6%)	(117.0%)
上昇率 (H17⇒H22)	全国平均		+10.2%
	大阪府		+10.6%

出典：大阪府（2013）「第 2 期大阪府医療費適正化計画」

- (1) ノーリツ鋼機が 2016 年 6 月 17 日に「健康年齢連動型医療保険」を発売した。
→実年齢によって保険料を設定する従来の保険とは異なり、健康年齢によって保険料が決

まる為、健康な人ほど保険料が安くなる。

加入後も更新時に健康年齢が下がっていれば保険料がさらに安くなる。

《健康年齢連動型医療保険とは》

- ・ 実年齢ではなく健康年齢によって加入する医療保険。
- ・ 実年齢ではなく健康年齢によって保険料がきまる。
- ・ 保険加入後も更新時に健康年齢が下がっていればその分保険料が安くなる

《商品概要》

- ・ 名 称：健康年齢連動型医療保険
- ・ 支払事由：5大生活習慣病（がん・脳卒中・心筋梗塞・高血圧・糖尿病）で治療のために入院したとき
- ・ 保険金額：80万円
- ・ 告知事項：過去1年間、5大生活習慣病で治療のための入院をしていない、又は治療のための入院を勧められていない 加入年齢：実年齢で18歳～75歳まで
- ・ 保険期間：1年間（更新時に改めて健康年齢を算出）
- ・ 引 受 元：健康年齢少額短期保険株式会社〔関東財務局長（少額短期保険業）第70号〕



出典：ノーリツ鋼機 <http://www.noritsu.co.jp/> (閲覧日：2016/10/5)

このように、いくつかの健診項目から健康年齢を算出して、その人に合った予測医療費を計算してくれる。

《海外では》

フランスの保険会社「AXA」では顧客にフィットネスアプリを提供し、毎日7,000歩または10,000歩以上歩くことを一ヶ月間続けた顧客の保険料を割り引くという施策を打ち出している。

日本でもウェアラブル端末などを利用し、統計データから個人の健康度を割り出し、保険業界で活用する流れが広がると保険に興味をもち、運動を始める人が増えるのではないかと考える。

4. 考察

《働く世代におけるスポーツ機会を充実させるには》

特にスポーツ実施率の低い20代～40代を主なターゲットとし、スポーツの持つ楽

し、素晴らしさを知ってもらえるような取り組みが必要である。例えば、時間の取り易い休日に、親子で参加するイベントを開催するなど、働き世代も子どもたちと一緒に楽しめるように考え企画する。

この場合の問題点としては、イベントスタッフやスポーツの知識を持つ人が必要だという事である。

《スポーツを支える人材の養成》

スポーツを支える人材とは、スポーツ指導者、栄養士、ドクター、スポーツボランティア、マネージャーなどです。イベントなどの開催はスポーツボランティア団体の活動支援や、スポーツ関係の団体の連携やネットワークを広げることも重要である。

5. 結論

高齢社会の中、年金・医療・介護を含む社会保険費の増加が社会問題となり、それらの費用は私たちの税金から支払われているのが現状です。そこで「健康年齢連動型医療保険」に加入すると、個人としては病気や怪我のリスクが減り、運動することで保険料もお得になる。大阪府としては大阪府民が健康で、医療費も削減される。この「健康年齢連動型医療保険」を効率よく活用することで、大阪府と大阪府民の両方にとって良いことである。

6. 今後の課題

この「健康年齢連動型医療保険」は、まだまだ知名度が低く、加入者も少ないのが現状である。他には、従来の保険制度とは異なり実年齢でなく、健康年齢で保険料が決まるのでまだ、浸透していないのも課題である。もっと大きく宣伝することで、多くの人に知ってもらい興味を持ってもらう事が必要である。

〈資料・参考文献〉

表1：文部科学省（平成24年度）成人の週1回以上のスポーツ実施率の推移

http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jisshi/1294610.htm（閲覧日：2016/10/5）

大阪市（2016）第3回大阪市スポーツ振興施策検討有識者会議 資料

大阪市（2016）大阪市民のスポーツと健康に関する実態調査

表2：大阪府（2013）「第2期大阪府医療費適正化計画」

表3：“日本初”「健康年齢[®]」で加入できる『健康年齢連動型医療保険』6月17日（金）から販売開始 ～160万件超の健康診断結果と医療費の相関を基に算出した『健康年齢[®]』を活用～

<http://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000001.000019829.html>（閲覧日：2016/10/5）

ノーリツ鋼機

<http://www.noritsu.co.jp/>（閲覧日：2016/10/5）